

2024年2月29日

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
2023年度教育課程編成委員会報告書

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘保育専門学校
教育課程編成委員会
委員長 今村雅彦

2023年度、教育課程編成委員会を実施しましたので、下記の通り報告します。

1 委員総数 〈12名〉

横浜国立大学教育学部教授	園田 菜摘
横浜国立大学教育学部教授	藤井 佳世
学校法人新栄学園認定こども園金沢白百合幼稚園園長	鈴木 敦
学校法人清正学園まきが原幼稚園園長	清水 満正
育和幼稚園園長	森谷 恭子
八幡橋幼稚園園長	秋山 菜穂美
聖ヶ丘保育専門学校	校長 今村 雅彦
”	副校長 渡辺 潤一
”	事務長 渡邊 慶信
”	教務部長 黒石 憲洋
”	就職指導部長 亀田 良克
”	学生指導部長 竹内 真悟

2 教育課程編成委員会開催日時

第1回 2023年9月6日(水) 16時~17時30分

第2回 2023年9月27日(水) 16時~17時30分

〈開催場所〉 聖ヶ丘保育専門学校 2階 204教室

3 委員会次第

第1回委員会次第

- (1) 学校長挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 2022年度教育課程編成委員会報告書の対応状況
- (4) 質疑応答

(5) 次回議事内容及び日程等

(6) その他

第2回委員会次第

(1) 2023年度教育課程改善方策(案)

(2) 質疑応答

(3) その他

(4) 学校長挨拶

4 議事報告

2023年度教育課程編成委員回改善報告(別添資料参照)

2024年2月29日

2023年度教育課程編成委員会改善報告

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘保育専門学校
教育課程編成委員会委員長
今村雅彦

項目	現在の状況報告	委員からの提言	今後の対応措置
① ICT 機器の活用	<ul style="list-style-type: none">● 求人票を google classroom に掲載し学生が閲覧できる環境としている。● コロナ禍より利用が始まった LMS の利用を継続している。	<ul style="list-style-type: none">● 求人票の閲覧状況を調査し今後につなげる良いのではないかと考える。● 就職後を見据え、ICT 機器操作の習得を目指してはどうか。	<ul style="list-style-type: none">● 見学届や受験届に google classroom から求人情報を入手したか否かについて記入する欄を設けることを検討したい。● LMS の利用を拡充していく方向である。
② 学生のコミュニケーション能力について	<ul style="list-style-type: none">● 授業、実習、学校行事を通してコミュニケーション能力を育んでいく。	<ul style="list-style-type: none">● 行事や実習前のグループワークを通して人間力の向上に努めてはどうか。● 人間関係を築くためのコミュニケーション能力の育成を目標としてはどうか。	<ul style="list-style-type: none">● 前年度に続き、クラスごとの HR を拡充し、行事や実習に向けてグループワークを取り入れていく。また、よりよいグループワークの在り方について、教員間での情報の共有や振り返りの機会を検討する。● カリキュラム変更に伴い、より多様な人間関係、コミュニケーション能力を構築できるような行事参加の在り方を検討する。

<p>③ 学校施設の活用に関して</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続的にカウンセリングを開設している。 ● 月に一度ホームルームを実施し、学生生活をサポートしている。 ● 図書室開放の充実に取り組んでいる。 ● 新入生オリエンテーション時に校内探索を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● カウンセリング開設日の告知を担当やホームルームを活用してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行の方法に加え、ホームルーム時に担任からカウンセリング日程について告知する。
<p>④ 文章力の低い学生への対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一年次の授業内で高等教育の意識付けを行っている。 ● 実習日誌はPDCAサイクルを意識した記述をさせている。 ● 5W1Hに沿った相手に伝わる文章を書く指導を行っている。 ● 実習後の振り返りを重点的に行っている。 ● 実習日誌を本校独自の自由形式に変更している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章能力向上に注力せず、表現力の向上を目指してはどうか。 ● 写真の活用も検討されてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの演習・実技授業にて表現力の向上を図っていく。特に教育・保育実践演習において表現力に加え、プレゼンテーション能力の向上を図る。パソコンでも記録できるように、日誌や指導案などフォーマット作成を検討課題とする。 ● 実習に於いては、園の許可を得た上で日誌にドキュメンテーションを取り入れるよう推奨していく。
<p>⑤ 修学意欲の低い学生への対応について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入生ピアノレッスンを再開する。 ● AO入試にて学生生活への展望を問うている。 ● 高校生向けの職業ガイダンスに本校付属園の教職員が参加することで、保育職を希望する学生の意思を 	<ul style="list-style-type: none"> ● AO入試時に入学後の目標を問うてはどうか。 ● オープンキャンパスで卒業生の講演を行うのはどうか。 ● 学生の悩みを受け止める体制を整備され 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2024年度AO入試面接時に、入学後の目標に関する質問事項の追加を検討。 ● 2024年度においても卒業生によるオープンキャンパスを実施する。 ● 担任面談、スクールカウンセラーの紹介等

	<p>強固にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ホームルーム、保育実践演習、窓口で学生の機微を捉えている。 ● 管理職宛の意見箱を設置している。 	<p>てはいかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個々の目標とする保育者像をサポートできるようになるか。 ● 入学後のホームルーム等で個々の目標を発表させてはどうか ● 教員を高校へ積極的に派遣してはどうか 	<p>の連携は随時おこなっているが、具体的な対応に繋げられるような体制構築について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 担任教員、専門教員、管理者等を含めた、個々の生徒の目標のサポート・チームの実現可能性について検討する。 ● 3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）について個々の目標の参考となるよう具体的な文言を見直す。履修カルテを活用し、個々の目標発表に繋げる。 ● 2024年度高校進路ガイダンス等で本校教員の派遣を検討。
<p>⑥ リカレント教育について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業生へ向けたアンケートを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習依頼時に卒業生の動向調査も行ってはどうか。 ● 社会人学生等広く門戸を開いてはどうか。 ● 卒業後3年以内の卒業生をオープンキャンパスやなでしこ祭に参加させてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでは、実習巡回時に教員へ前年度内定者リストを作成し配布していた。実習依頼時に前倒しすることを検討したい。 ● 人材育成指標の落とし込みを検討課題とする。 ● 2023年度は、おもちゃインストラクター養成講座及び幼児安全法支援員養成講座を卒業生にも開催・実

		<ul style="list-style-type: none"> ● 在学中にアンケートへの回答方法を聴取することで、卒業後のアンケート回答率が向上するのではないか。 	<p>施した。引き続き2024年度の開催予定講座においても卒業生にアナウンスする。また、OCにおいても2023年度同様に卒業生を招いて現場の概要等について講義予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業や謝恩会等でアンケート調査への協力依頼を実施する予定である。
⑦ その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習期間中は実習部教員が随時学生の対応にあたっている。 ● ハラスメントに対する基本方針は学園の教職員に向けて打ち出している。 ● 実習時間を一律8時間としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習中の学生を組織的にサポートする体制づくりの検討をされてはどうか。 ● 実習後のグループワークにリスクマネジメントの観点を取り入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 巡回訪問教員のサポート体制を検討課題とする。また、引き続き実習期間中の帰校日において学生のフォローを継続する。 ● 実習の振り返りにおいてリスクマネジメントの観点を取り入れることを検討し実施する

以上